

平成 25 年 5 月 14 日

平成 25 年度 「新入社員 意識調査」

足利銀行（頭取 藤澤 智）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 伊沢 正吉）は、「平成 25 年度新入社員意識調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

記

<ポイント>

- ◇ ゆとり教育を受け、不安定な世の中で育ち、短縮された就職活動を勝ち抜いてきた今年の新入社員。なでしこジャパンなど女子スポーツ選手の華々しい活躍を見てきた世代は、就職に対する意識も女性が大きく変化してきている。
- ◇ 「働きたい業種・業界で会社を選び、自己の人間性の成長や社会貢献のために働き、友人の約束よりも仕事を優先する…」という、しっかりしている新入社員像は昨年同様だった。
- ◇ 一方で、「勤務・転職についてどう考えますか」の問いには、「定年まで働きたい」が女性で大幅に増加している。
- ◇ また、「どのくらいまで出世したいか」の問いには、女性で「課長・店長などのリーダー職ぐらい」が大幅に増加した。
- 1. 会社を選んだ基準
「自分が働きたい業界・業種」が 68.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」31.9%、「会社・上司の雰囲気が良い」が 29.8%となった。
- 2. 働く目的
「収入を得ること」が 68.7%と多く、「自己の人間性の成長」が 48.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」が 36.4%となった。
- 3. 不安
「仕事についていけるかどうか」が 74.2%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」が 62.6%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」47.0%となった。
- 4. 勤務・転職等
「定年まで働きたい」が男性 62.7%、女性 43.8%と最も多かったが、昨年度調査と比較すると女性が大幅に増加している。
- 5. 出世
昨年度調査と比較すると、女性では「課長・店長などリーダー職ぐらい」が大幅に増加している。女性スポーツ選手等の活躍がマスコミで報道されていたときに就職活動を行った世代であり、会社での女性の目指す職位の意識も大きく変化してきている。

以上

本件に関するお問い合わせ先：(株)あしぎん総合研究所 小林 Tel028-647-5311

平成 25 年度 「新入社員 意識調査」

<ポイント>

- ◇ ゆとり教育を受け、不安定な世の中で育ち、短縮された就職活動を勝ち抜いてきた今年の新入社員。なでしこジャパンなど女子スポーツ選手の華々しい活躍を見てきた世代は、就職に対する意識も女性が大きく変化してきている。
- ◇ 「働きたい業種・業界で会社を選び、自己の人間性の成長や社会貢献のために働き、友人の約束よりも仕事を優先する…」という、しっかりしている新入社員像は昨年同様だった。
- ◇ 一方で、「勤務・転職についてどう考えますか」の問いには、「定年まで働きたい」が女性で大幅に増加している。
- ◇ また、「どのくらいまで出世したいか」の問いには、女性で「課長・店長などのリーダー職ぐらい」が大幅に増加した。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 68.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」31.9%、「会社・上司の雰囲気が良い」が 29.8%となった。

2. 働く目的

「収入を得ること」が 68.7%と多く、「自己の人間性の成長」が 48.2% 「社会の一員として社会へ貢献するため」が 36.4%となった。

3. 不安

「仕事についていけるかどうか」が 74.2%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」が 62.6%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」47.0%となった。

4. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が男性 62.7%、女性 43.8%と最も多かったが、昨年度調査と比較すると女性が大幅に増加している。

5. 出世

昨年度調査と比較すると、女性では「課長・店長などリーダー職ぐらい」が大幅に増加している。女性スポーツ選手等の活躍がマスコミで報道されていたときに就職活動を行った世代であり、会社での女性の目指す職位の意識も大きく変化してきている。

<調査方法>

- (1) 調査期間 : 平成 25 年 3 月 25 日～4 月 17 日
- (2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県 10 回、群馬県 1 回、埼玉県 1 回、出張研修 3 回)
- (3) 有効回答数 : 687 名 (回答率 99.4%)

内 訳 : 男性 377 名、女性 310 名

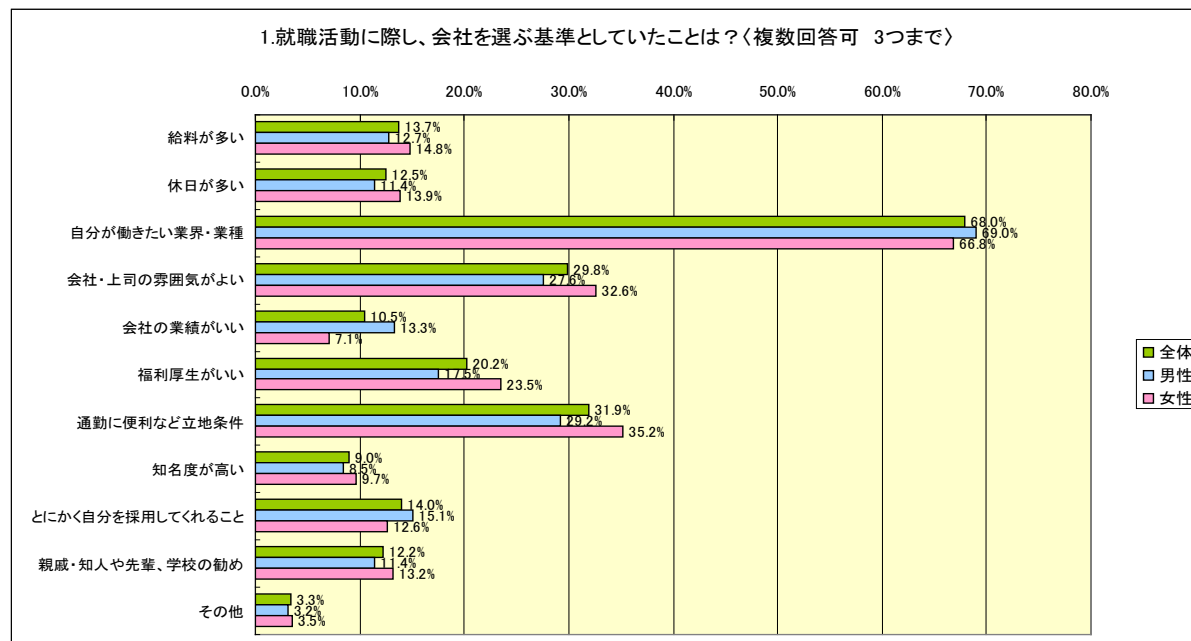
大学・大学院 43.6%、高専・短大・専門学校 13.5%

高校 24.9%、中途採用、その他 18.0%

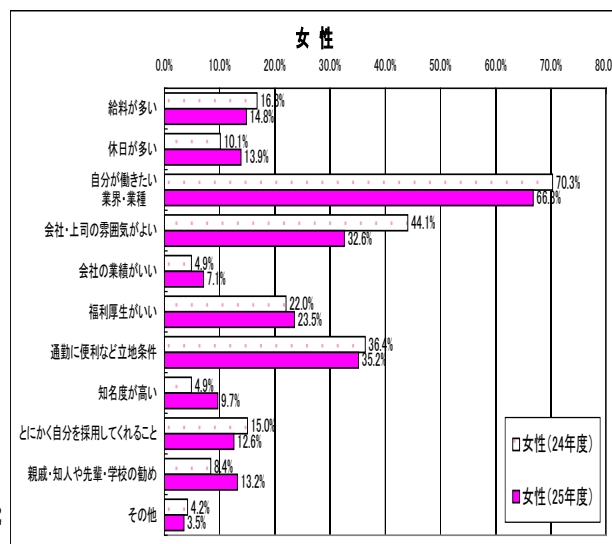
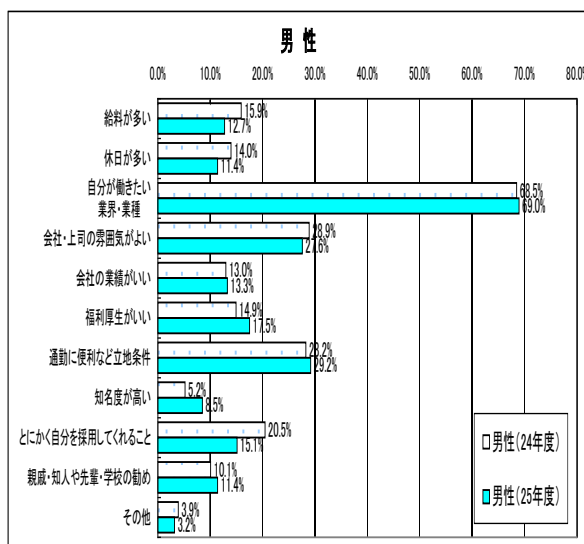
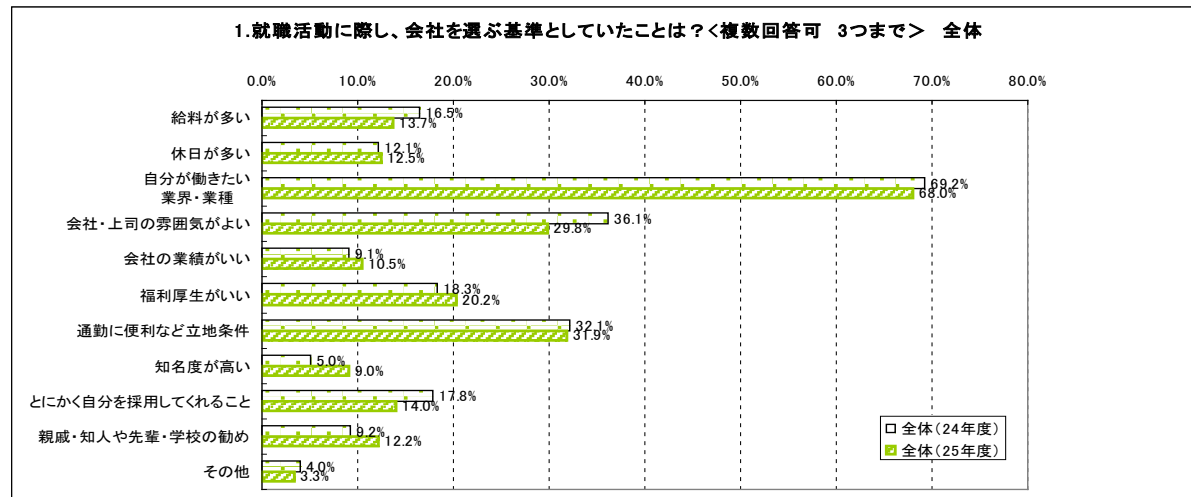
1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」が68.0%と圧倒的に多く、次いで「通勤に便利など立地条件」31.9%、「会社・上司の雰囲気がよい」29.8%となった。会社選定の大前提としては、「興味ある業界・業種かどうか」がポイントである傾向は昨年と変わらない。

男女別では、「会社・上司の雰囲気がよい」「通勤に便利などの立地条件」が女性で多く、「会社の業績がいい」「とにかく自分を採用してくれること」が男性で多かった。



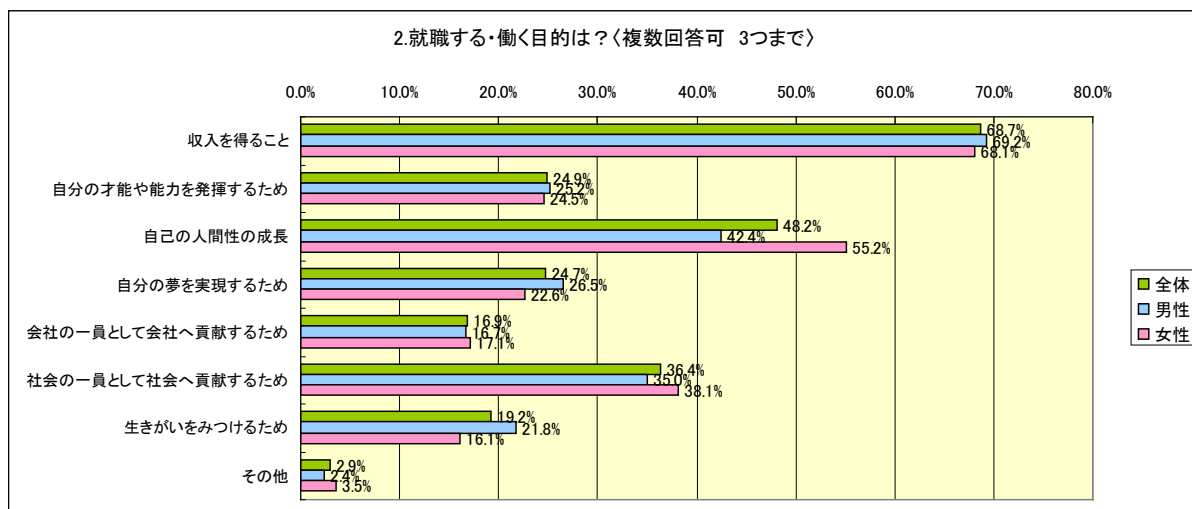
昨年度調査との比較では「福利厚生がいい」「知名度が高い」等が増加した。



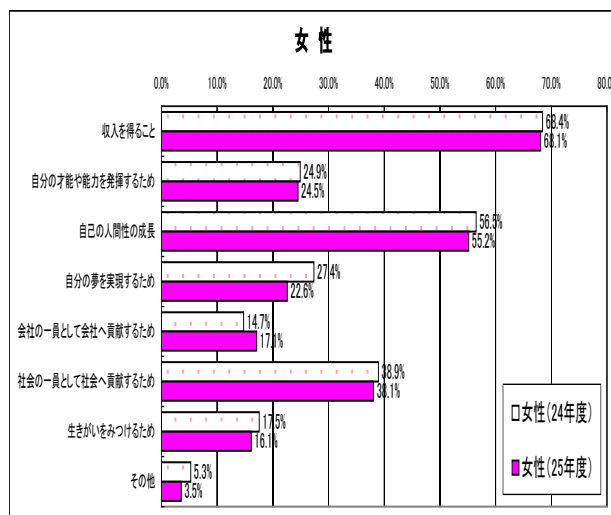
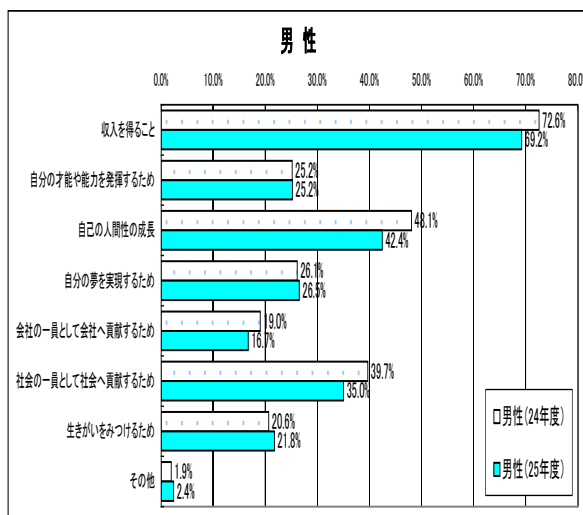
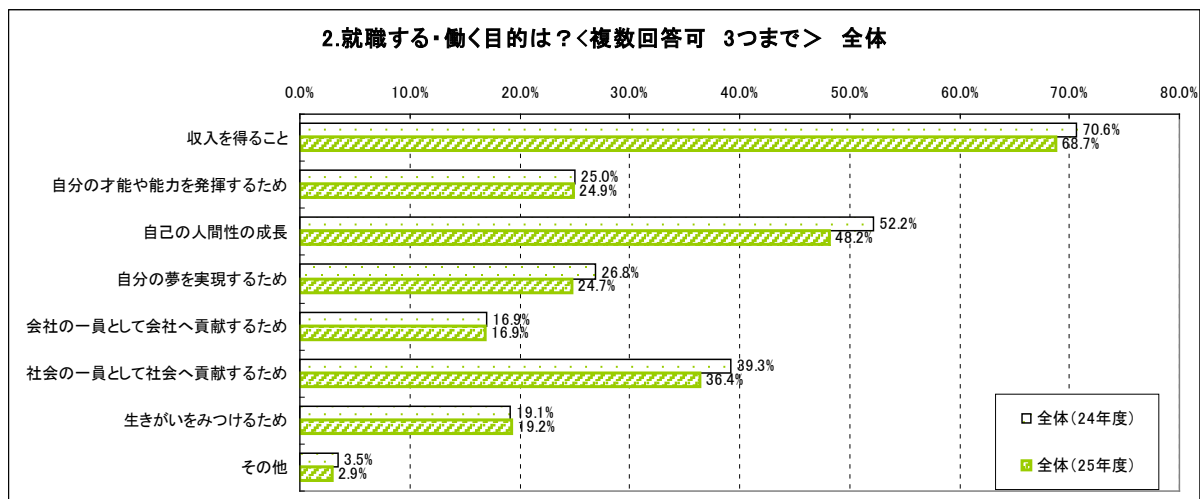
2. 就職する・働く目的は？

当然ながら、「収入を得ること」が 68.7%と最も多い。次いで多かったのは「自己の人間性の成長」48.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」36.4%となった。

男女別では「自己の人間性の成長」「社会の一員として社会へ貢献するため」で女性の回答が多く、「自分の夢を実現するため」「生きがいを見つけるため」で男性の回答が多い。



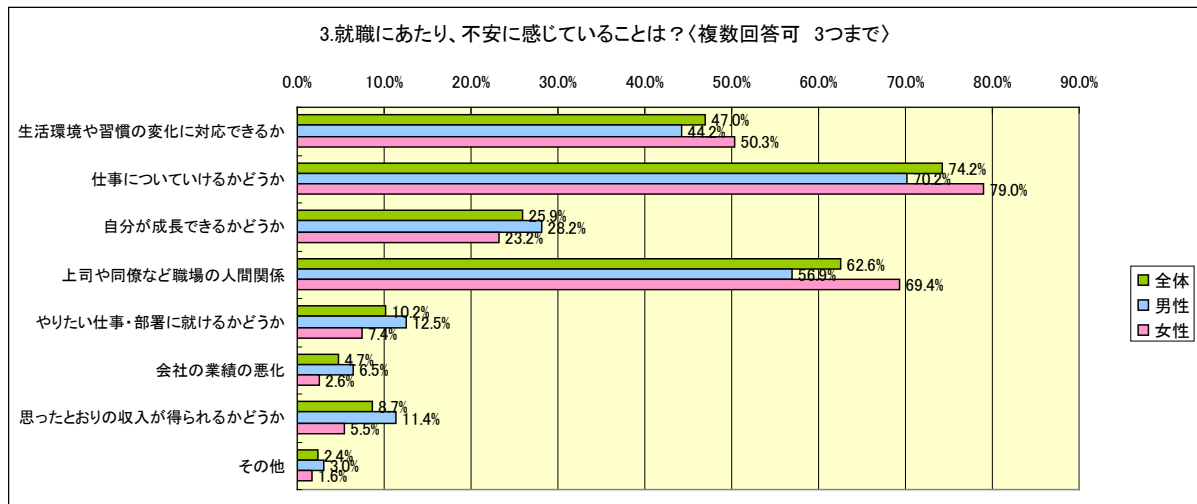
昨年度調査と比較すると、女性の「会社の一員として会社に貢献するため」が増加している一方で、男性の同項目は減少している。女性の就職に関する意識の高まりが感じられる。



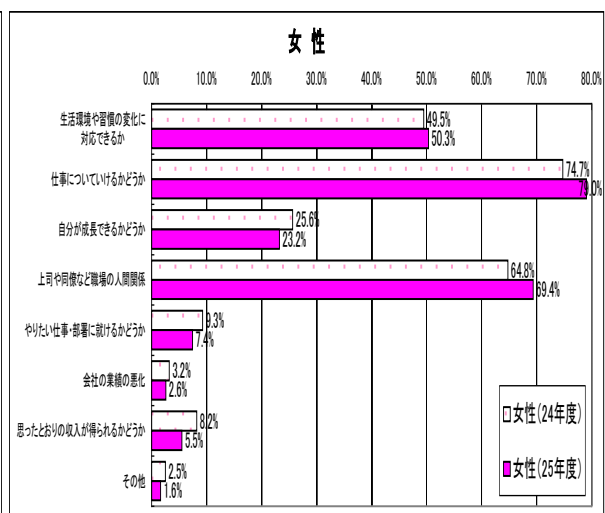
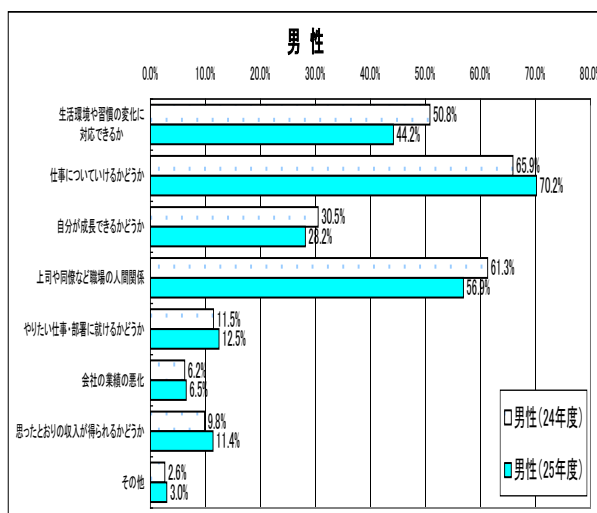
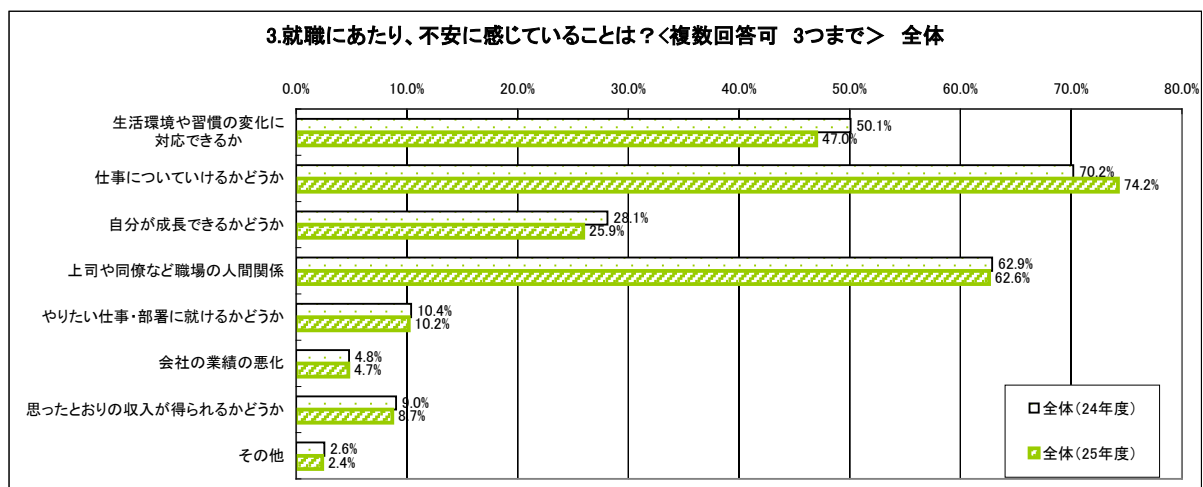
3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

「仕事についていけるかどうか」が74.2%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」が62.6%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」47.0%となった。

男女別で差がみられたのは、「仕事についていけるかどうか」「上司や同僚など職場の人間関係」が女性で多く、「自分が成長できるかどうか」「やりたい仕事・部署に就けるかどうか」「思ったとおりの収入が得られるかどうか」が男性で多い。



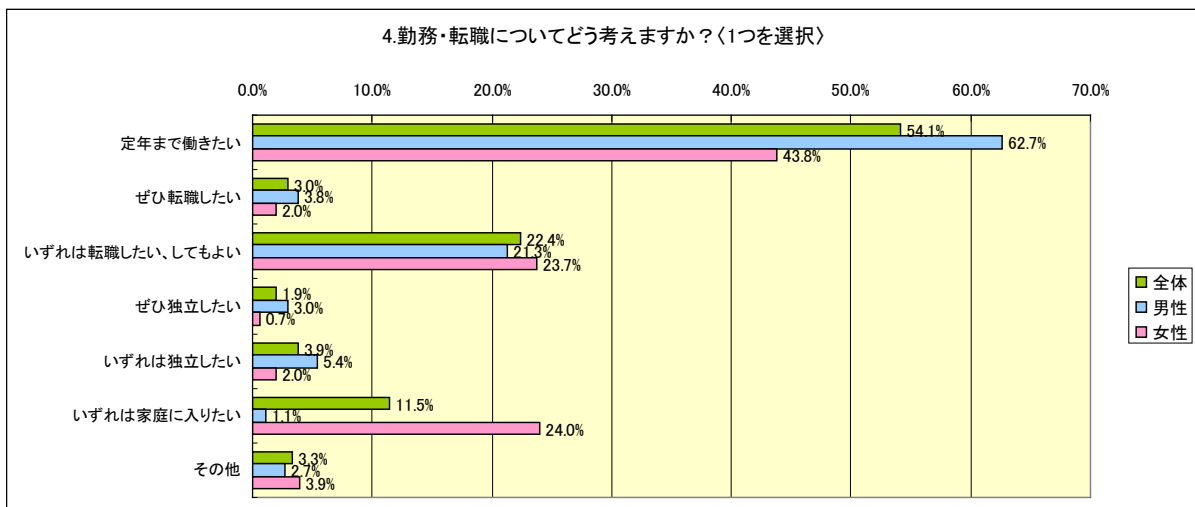
昨年度調査と比較すると「仕事についていけるかどうか」の増加が目立った。



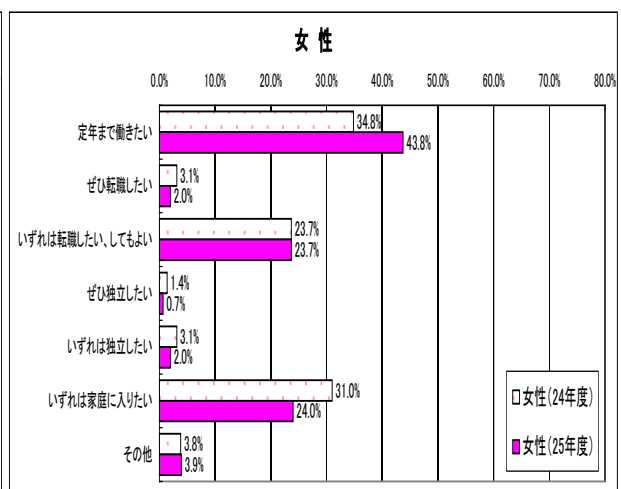
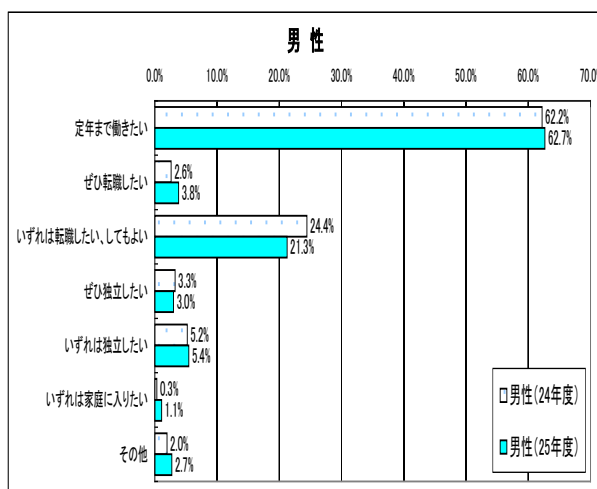
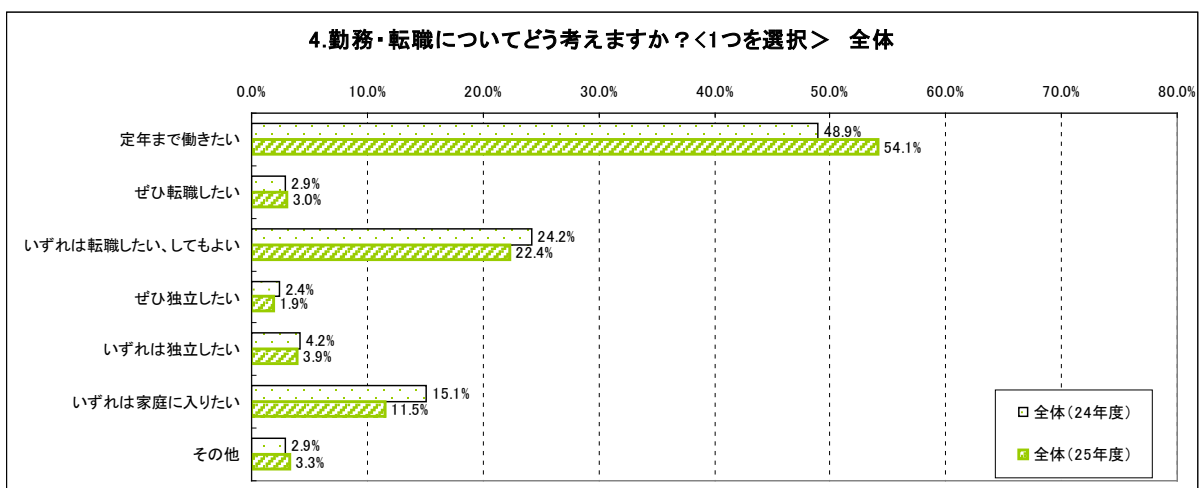
4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

男性は、「定年まで働きたい」が 62.7%と最も多く、次いで「いずれは転職したい、してもよい」21.3%、「いずれは独立したい」5.4%となった。

女性は、「定年まで働きたい」が 43.8%と最も多かったが、次いで「いずれは家庭に入りたい」が 24.0%、「いずれは転職したい、してもよい」23.7%となった。

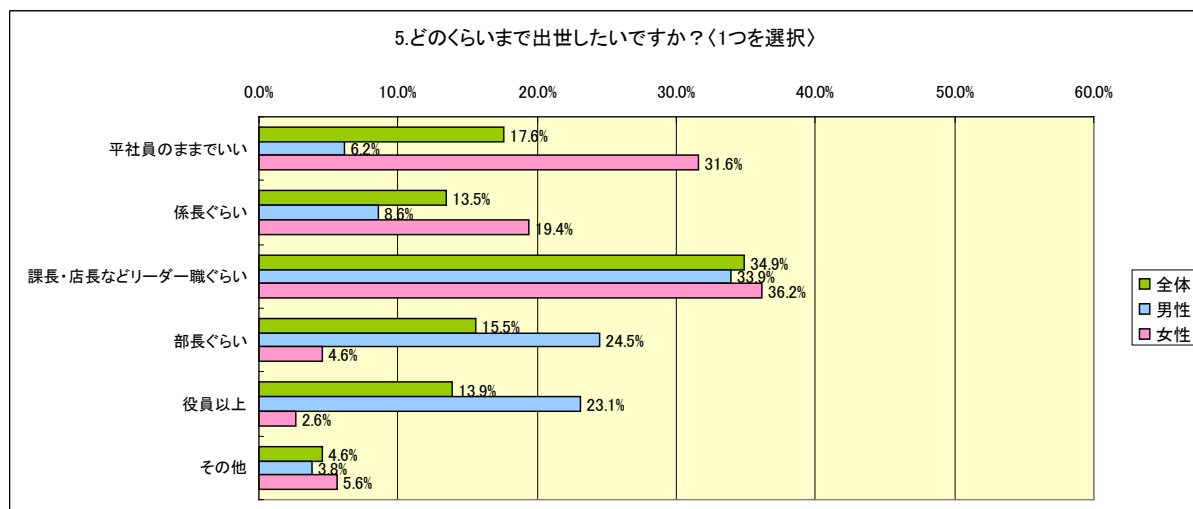


昨年度調査と比較すると、女性の「定年まで働きたい」が増加しており「いずれは家庭に入りたい」が減少している。女性の就職に関する意識の変化が鮮明に現れた結果となった。

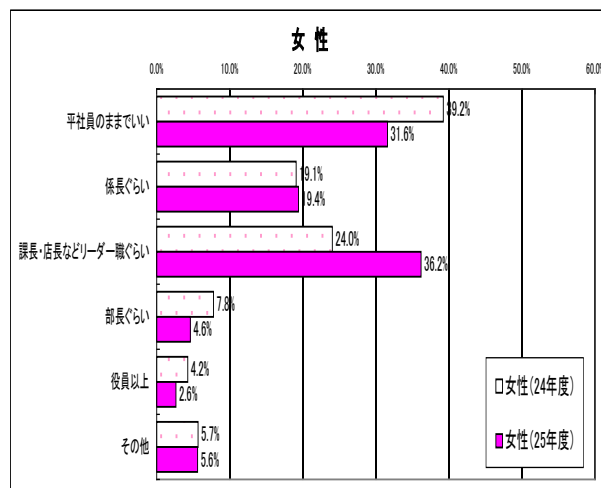
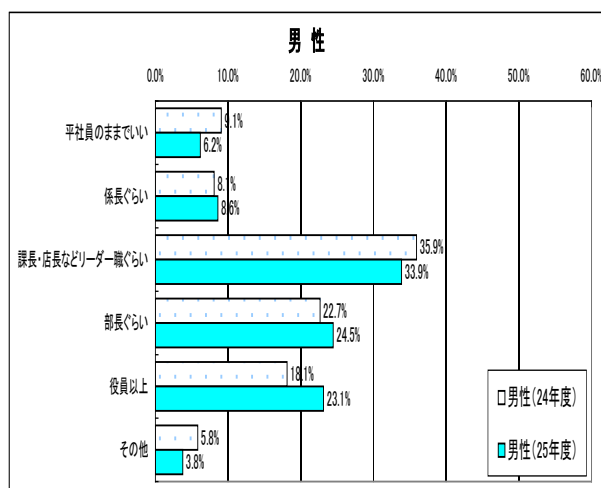
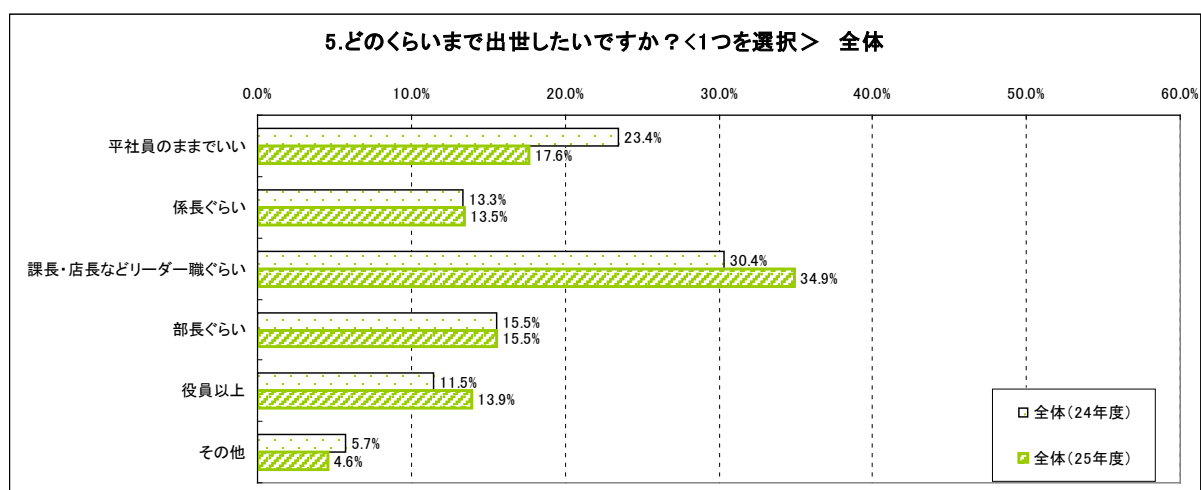


5. どのくらいまで出世したいか？

ここでは男女差がはっきりと表れた。より上席になるほど男性の回答が多く、課長・店長等のリーダー職以上を目指す回答が81.5%となった。女性では「課長・店長などリーダー職ぐらい」が36.2%で最も多く、次いで「平社員のままでいい」31.6%となった。

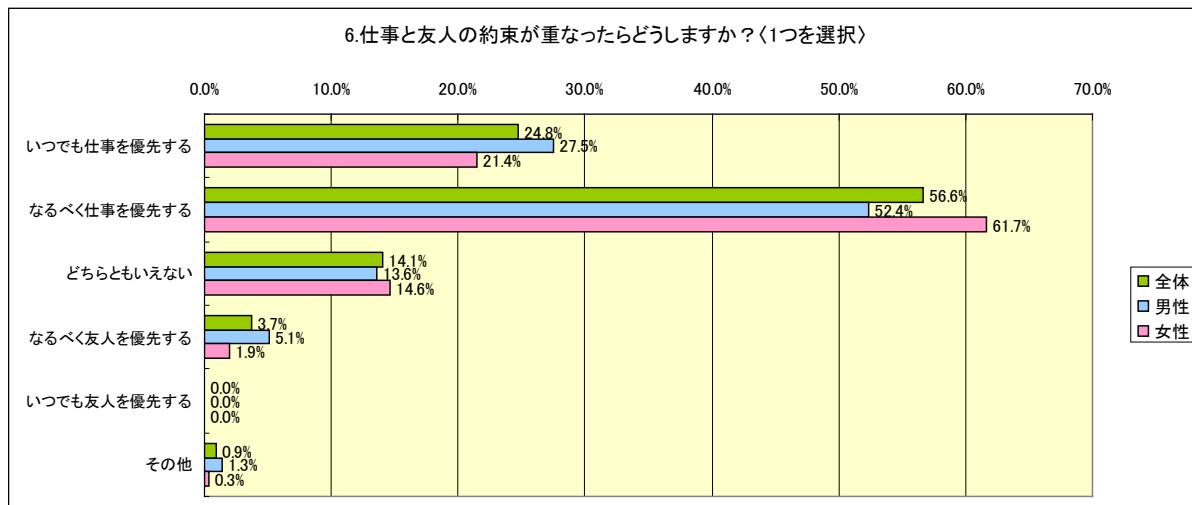


昨年度調査と比較すると、女性では「課長・店長などリーダー職ぐらい」が大幅に増加している。女性スポーツ選手等の活躍がマスコミで報道されていたときに就職活動を行った世代であり、会社での女性の目指す職位の意識も大きく変化してきている。

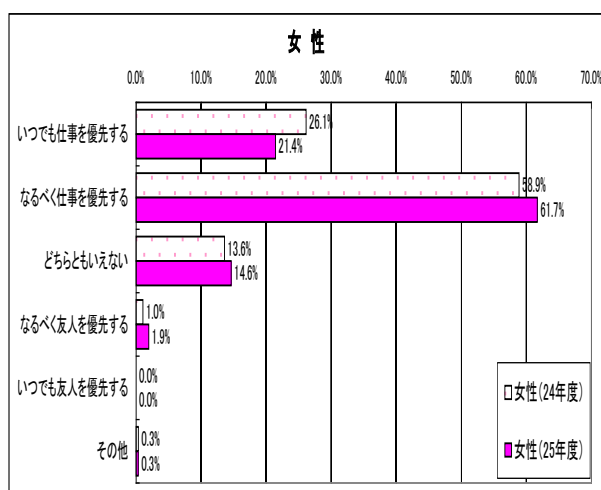
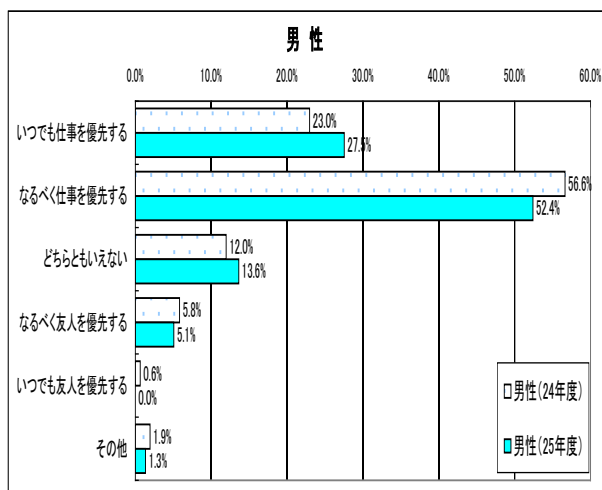
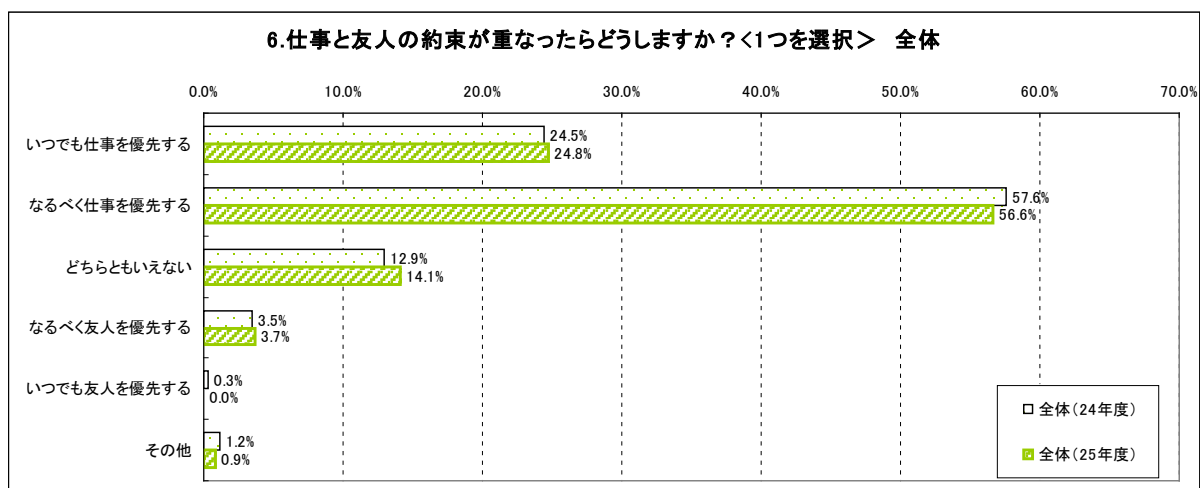


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先する」が56.6%と最も多く、次いで「いつでも仕事を優先する」が24.8%となった。合計すると81.4%となり、友人の約束よりも「仕事を優先」派が多い傾向は昨年と変わらない。



昨年度調査と比較すると、男性の「いつでも仕事を優先する」、女性の「なるべく仕事を優先する」が大きく増加している。



7. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

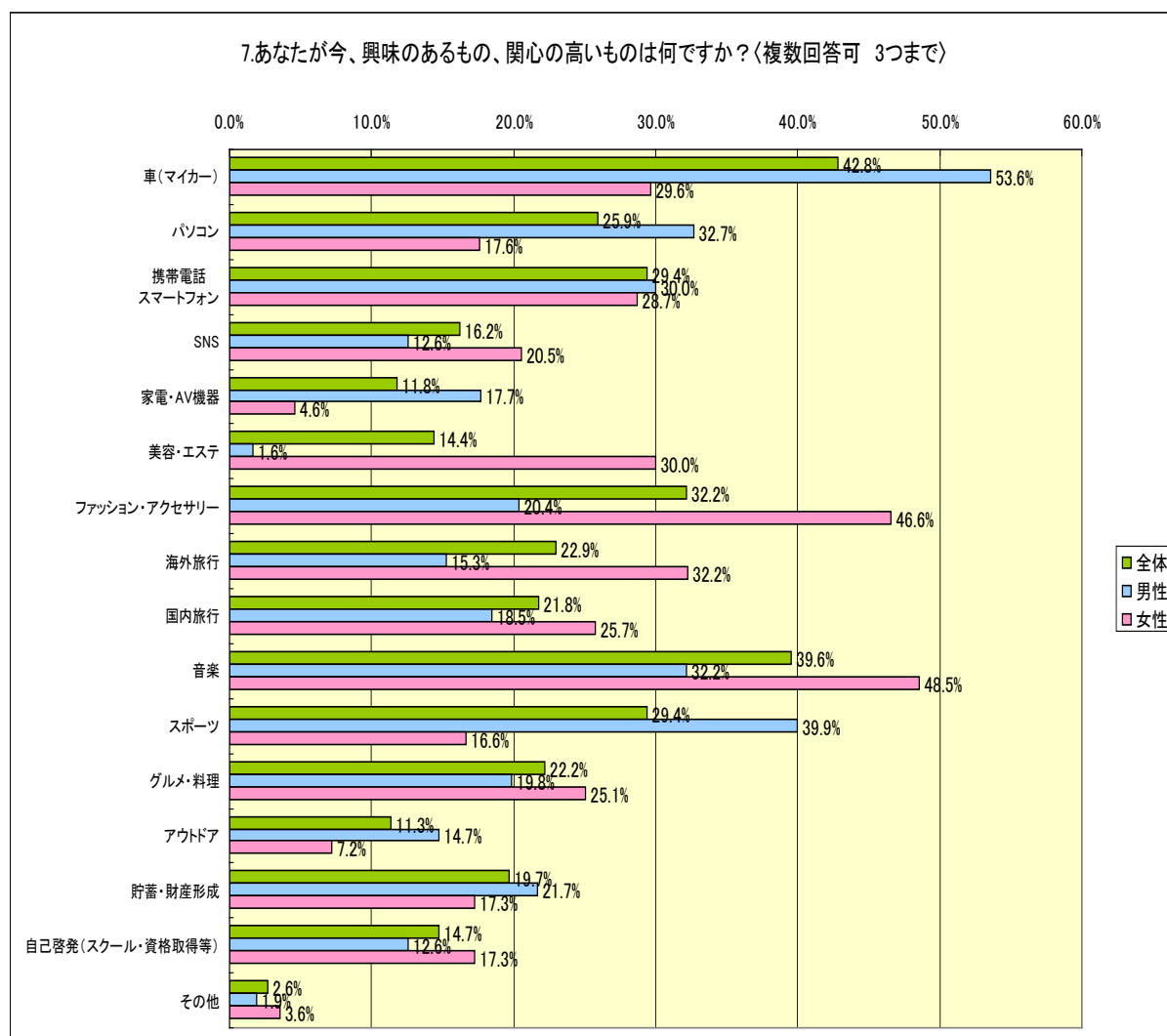
この項目では、男女の回答に大きな開きがみられた。

<男性>

①車（マイカー）	53.6%
②スポーツ	39.9%
③パソコン	32.7%
④音楽	32.2%
⑤携帯電話・スマートフォン	30.0%

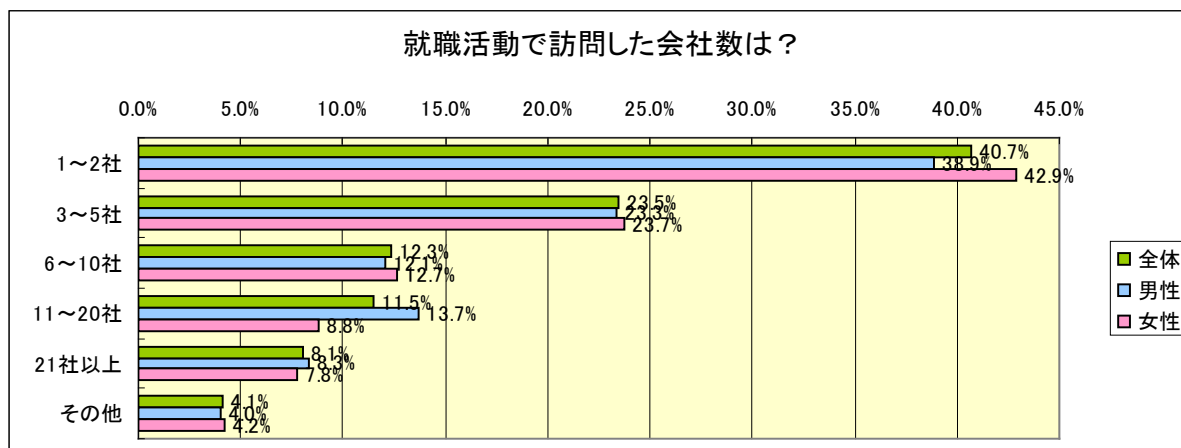
<女性>

①音楽	48.5%
②ファッション・アクセサリ	46.6%
③海外旅行	32.2%
④美容・エステ	30.0%
⑤車（マイカー）	29.6%

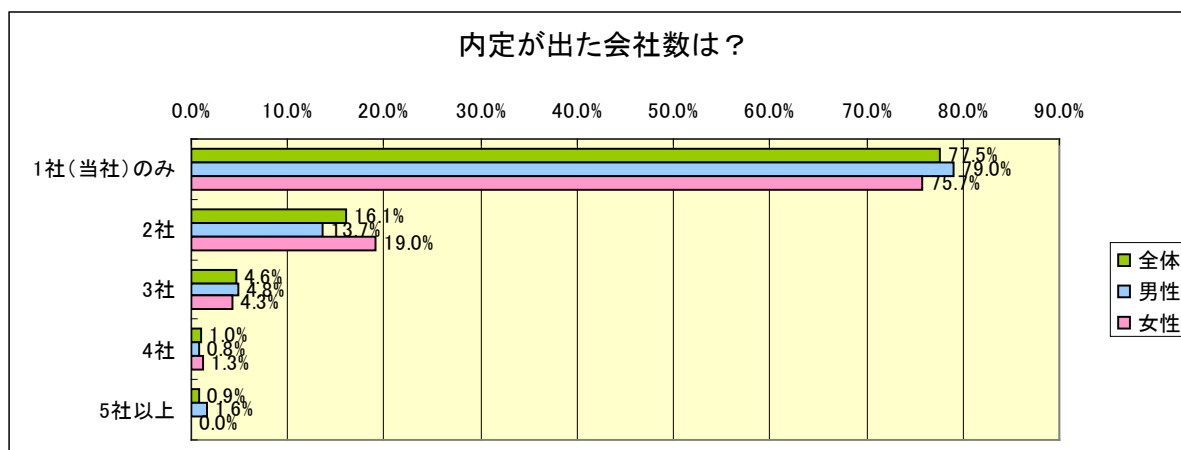


8. 新卒者の就職活動の状況について

(1) 新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「1～2社」が40.7%と最も多い。就職活動期間が短縮された影響からか、10社以上の訪問については男女の差が大きく現れた。

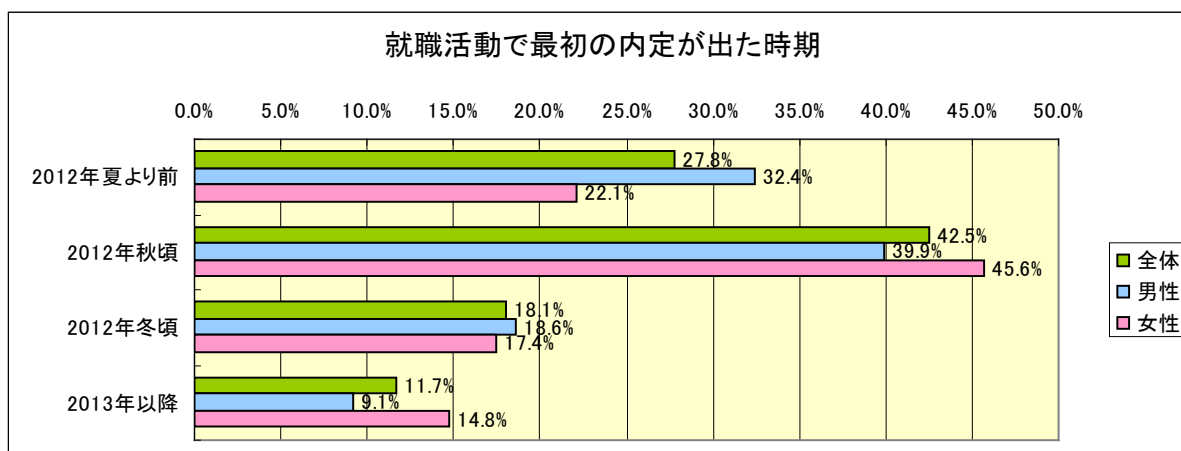


(2) 内定企業数は「1社（当社のみ）」が圧倒的に多く、厳しい就職戦線を反映した。



(3) 内定が最初にでた時期は、「2012年秋頃」が目立って多かった。

「2012年冬頃」「2013年以降」の回答も比較的多く、就職活動が長引いたことを裏付けた。



以上